

第4回いじめを考える児童生徒委員会の結果について

教育指導課

子どもたちの願いが込められた「はだの子ども人権宣言」の実現をめざし、いじめを生まない学級・学年・学校風土をつくるために設置した、「いじめを考える児童委員会」は、発足以来14年目を迎え、いじめ防止運動は各校でも「継続的な取組が効果をあげている活動」として定着しています。

今年度最後となる第4回では、新型コロナウイルス対策を図るため2部制とし、1部では、秦野警察署及び秦野少年補導員連絡会と連携して実施しました。

1 日時 令和3年11月7日（日）

1部：小学生 9時30分から12時00分

2部：中学生 13時30分から16時00分

2 会場 秦野市堀川公民館 多目的ホール 他

3 参加者

(1) 児童生徒委員 1部 24名、2部 18名

(2) 教職員 1部 18名、2部 9名

(3) 教育委員 1部 4名、2部 1名

(4) 市P連 1部 9名、2部 15名

(5) 秦野少年補導員連絡会等 32名

(6) 教育委員会等（1・2部） 12名

合計 1部 99名

2部 55名



秦野警察署長あいさつ

4 内容

今年度の委員会は8月の第3回委員会が新型コロナウイルスの影響で書面開催となりましたが、今回の第4回委員会では、まず佐藤教育長から現代社会やSDGsにも通じる考え方として、二宮尊徳の「至誠」「一円融合」という言葉を用いてごあいさつをいただきました。その後、「いじめが起きない・起きにくい学級・学年・学校のためのリーフレット」の検討と、児童生徒委員の他に、教職員、保護者、地域の方々にも多数参加いただき、1部・2部それぞれのテーマで協議を行いました。

(1) 1部

まず来賓の秦野警察署長 竹田 茂 様から代表児童に対し、万葉集の『返し歌』である「しろがねも こがねも たまも なにむせに まされる宝 子にしかめやも (銀も金もいかに優れた宝石も、子どもという宝には及ばない)」を用いて、未来を創っていく大切な子どもたちのためにある本委員会の素晴らしさをお話いただきました。

次に、これまで取り組んできたリーフレットづくりのまとめとして、各委員が意見を出し合いました。その後、少年補導員と小学生が6つのグループに分かれ、「STOP! THE いじめ! 検討会 ～地域の大人と一緒に考えよう!～」をテーマに、いじめを生まない学級・学年・学校風土づくりとしてそれぞれの立場の方からの意見等を交えて協議を行い、最後は、各グループの代表児童が協議でまとめた模造紙を用いて発表し、参加者全員でいじめ撲滅に対する意識向上を図りました。



小泉教育委員の総評

(2) 2部

1部と同じように、リーフレットづくりの意見交換を行った後、秦野市PTA連絡協議会委員の方々や教職員とともに中学生が4つのグループに分かれ、「ネットいじめを防止するために」をテーマに、年々、増加傾向にあるネットいじめに対して、いつ・だれが・どんなことをすれば防止できるのかを中心に協議をして、最後には各グループの代表生徒が協議でまとめた模造紙を用いて発表を行いました。



リーフレット検討



グループ協議



協議のまとめ発表

